

### 第3節 豊川流域における竪穴住居に関する一考察

本稿は森岡遺跡で検出された竪穴住居の位置付けを行う為に、東三河地域なかでも豊川流域に所在する遺跡において発掘調査で確認された竪穴住居を時代別に検討し、各時代の特徴・住居跡の変遷を明らかにする事を目的とする。

#### 1. 分析項目

森岡遺跡を含め豊川流域において発掘調査で検出され、土器型式により時代が特定しうる竪穴住居は15遺跡163軒である。各遺跡名、所在地等は別記の第72図に譲ることとし、比較の為に具体的項目の設定を述べる。基本的には報告書記載の表現、計測値を使用するが、遺構の規模・南北軸の方位・床面積に関しては基準の統一を図るため報告書掲載図面をもとに再計測した。

**時期** 検出遺構の時期は以下の6区分とする。検出された遺構の内、その存続時期が二時期におよぶ住居については、古段階の形態に規定されながら新段階の形態的要素を取り込んでいると考えることができる。従って今回は該当住居は古段階の資料として扱うものとする。

- I. 弥生時代中期；長床（高蔵）期
- II. 弥生時代後期；寄道（山中）、欠山期
- III. 古墳時代前期；元屋敷期
- IV. 古墳時代後期；6世紀代、7世紀代
- V. 奈良時代；8世紀、8世紀末から9世紀初
- VI. 平安時代；9世紀、11世紀

**規模** 遺構の上端から上端までを一辺の長さとする。計測値は少数点第2位を四捨五入し、南北辺×東西辺の順で表記する。単位はm。カッコ付きの数字は遺構の残存値を示す。平面形については、南北辺・東西辺ともに長さが確定し得た住居については（南北辺）÷（東西辺）=0.9~1.1の範囲を方形住居、それ以外を長方形住居とした<sup>(1)</sup>。またいずれか一辺が残存値の場合の平面形は報告書の記載に依った。

**掘形比高** 検出面からの遺構の深さを表す。但し、一律の計測値ではなく報告書記載の数値である。

**床面積** （南北辺）×（東西辺）=床面積とする。したがって全ての住居が若干広く計測されている。またカッコ付きの数値は遺構の残存面積を表す。

**方位** 南辺の垂直二等分線と真北でつくられる角度を表記。南辺が残存不良の場合は北辺の垂直二等分線を使用した。また報告書記載方位が磁北の場合は、真北とのN-6°-Eの差<sup>(2)</sup>を考慮して真北に変更した。

**周溝** 報告書に記載されている場合は「あり（位置）」、記載が無い場合は「不明」と表記。

**炉・カマド跡** 報告書に記載されている場合は「あり（位置）」、記載が無い場合は「不明」と表記。

**その他** 主に柱穴、貯蔵穴について表記。例えば4主柱穴とは柱穴が4本ということである。

## 2. 具体的分析

先に述べた比較項目にしたがって、以下時代別に住居跡の特徴をみてゆく。但し、比較項目の内、面積・平面形に関しては正確を期す為に南北辺・東西辺共に長さを確定しえた住居（以下面積確定住居と表現）に限定した。

### I. 弥生時代中期

分析対象遺構は3遺跡17住居、うち面積確定住居は11棟。最大住居は「橋良」13号住居の54.0㎡、最小住居は「橋良」10号住居の16.8㎡、平均値は28.2㎡である。11棟のうち20～30㎡の範囲に含まれる住居が4棟（37%）と最も多い。そして40～50㎡の範囲の住居が1棟、都合4住居となり、今回の分析対象の住居跡の中では大型の範疇に含まれる住居が検出されている。平面形に関しては、長方形（隅丸長方形を含む）住居が10棟（90%）とその大半を占めている。これ以外は方形（隅丸方形を含む）住居が1棟確認されたのみで、円形住居等は検出されていない。弥生前期の住居跡が検出されていないため形態の変化を追うことはできないが、少なくともこの時期は長方形住居が主流であると考えることができる。

方位は一方向に集中することなく、計測可能な15棟のうち南北軸を西へ振る住居が6棟（40%）、東へ振る住居が7棟（47%）と平均している。ここでは面積が40㎡以上の住居がN-30°-E付近に集まっている点、南北軸を東へ振る住居は全て豊川左岸に位置する橋良遺跡で検出された住居跡である点を指摘することができる。

炉・カマドの施設については、17棟のうち7棟で炉跡（明確な遺構ではなく焼土塊であることが多い）が検出されており、カマドはこの時期の住居からは検出されていない。さらに周溝、柱穴については周溝が確認された住居が15棟（88%）であることから、この時期の大半の住居跡には構造上周溝が備わっていたと考えることができる。柱穴については確認された住居跡の全てが4主柱穴となっている。

### II. 弥生時代後期

**寄道期** 検出遺構は4遺跡20住居、うち面積確定住居は7棟。最大住居は「諏訪」S B101で42.9㎡、最小住居は「南貝津」S B03の20.2㎡、平均値は29.6㎡である。この7棟のうち20～30㎡の住居が5軒と全体の70%を占める様になる。しかし弥生中期にみられた40㎡以上の住居は1棟（14%）と減少している。方位は計測可能な17棟のうち南北軸を西に振る住居が12棟（71%）、東へ振るもの5棟（29%）となり、大半の住居が西へ振る様になる。平面形は弥生中期の長方形中心から方形住居4棟（57%）、長方形住居2棟（29%）となり、比率的には逆転している。あわせて円形住居の可能性を持つ遺構（「郷中」S B02）も検出されている。炉・カマドの施設については炉跡が9棟で確認されており、カマドは未だ検出されていない。周溝に関しては7棟で確認されており、変化は見られない。柱穴は4主柱穴が「郷中」S B15で、5主柱穴が「諏訪」S B102で確認されている。

**欠山期** 4遺跡14住居が検出されており、うち面積確定住居は7棟。最大住居は「石堂野」S B02の48.3㎡、最小住居は「南貝津」S B11の6.8㎡、平均値は28.4㎡である。面積の分布は20～30㎡の住居が3軒（43%）で最も多いがその他の範囲にも全体的に分布している。しかし寄道期同様40㎡以上の住



遺跡名	文中表記	所在地	立地	検出住居跡数							奈良時代	平安時代	不明	その他			
				弥生中期 (長床)	弥生後期 (寄道)	弥生後期 (穴山)	古墳前期 (元屋敷)	古墳中期 (5C)	古墳後期 (6C)	古墳後期 (7C)							
1	南貝津遺跡	「南貝津」	新城市	豊川右岸上位段丘		4	5	4								7	
2	杉山遺跡	「杉山」	新城市	豊川右岸中位段丘								1					
3	諏訪遺跡	「諏訪」	新城市	豊川右岸中位段丘		4	5					41	1				弥生1
4	宮沢遺跡	「宮沢」	宝飯郡一宮町	豊川右岸沖積低地				10			1						
5	西浦遺跡	「西浦」	宝飯郡一宮町	豊川左岸沖積低地									2				
6	麻生田大橋遺跡	「麻生田」	豊川市	豊川右岸段丘縁辺							3						
7	郷中遺跡	「郷中」	豊川市	豊川右岸沖積低地	2	10	2	1			2		1				
8	石堂野遺跡	「石堂野」	宝飯郡御津町	豊川右岸段丘			2				1	8			1		
9	森岡遺跡	「森岡」	豊橋市	豊川左岸中位段丘	1	2					5		2				
10	多り畑遺跡	「多り畑」	豊橋市	豊川左岸中位段丘							1					1	
11	青木Ⅰ遺跡	「青木Ⅰ」	豊橋市	豊川左岸中位段丘							2						
12	西屋敷Ⅰ遺跡	「西屋敷Ⅰ」	豊橋市	豊川左岸中位段丘						2							
13	公文遺跡	「公文」	豊橋市	豊川左岸低位段丘									1				奈良(?) 1
14	見丁塚遺跡	「見丁塚」	豊橋市	豊川左岸低位段丘							5	3					古墳後期 4
15	橋良遺跡	「橋良」	豊橋市	豊川左岸低位段丘	14												
					17	20	14	15			7	18	51	6	9		6

第72図 遺跡位置図及び遺跡別検出住居数一覧

居は1棟(14%)と存在するものの比率的には低い。方位は南北軸を西に振る住居が9棟(75%)、東に振る住居が3棟(25%)とこの時期も南北軸を西に振る住居が中心となっている。平面形は「南貝津」SB11が不整形ながら円形を示し、その他は方形住居5棟(71%)、長方形住居が1棟(14%)で方形住居中心の傾向が継続している。周溝、炉、カマドに関しても変化は見られず、周溝は6棟で、炉跡は5棟で確認されているがカマドは検出されていない。柱穴は4 支柱穴の住居が3棟確認されている。また貯蔵穴が南貝津遺跡の2住居(SB04、09)で確認されている。

上記のことからこの弥生時代後期に属する2時期の住居は同じ特徴を有しており、住居における時期差はみとめられない。面積的には20~30㎡の範囲の住居が7棟(57%)を占め、40㎡以上の住居は2棟(14%)と存続するものの、弥生時代中期に比して減少傾向にある。方位面では南北軸を西へ振る住居が21棟(72%)とその大半を占める様になる。なかでもN-0°~30°-Wの範囲に14棟と方位測定可能住居29棟の半数に近い住居が属している。尚、ここで扱った住居が全て豊川右岸に位置する住居であり、左岸の資料が含まれておらず単純に比較する事はできないが、弥生時代中期には見られなかった南北軸を東に振る住居が豊川右岸で検出されていることは注目される。平面形は前段階の長方形中心から方形中心へと変化している。また不確定ながら円形住居も検出されている。周溝、炉跡の存在も弥生中期に引き続き確認され、カマドの存在は確認されていない。柱穴は4 支柱穴が主流であり、5 支柱穴の住居も確認されている。以上の点から弥生時代中期から後期にかけては面積が縮小傾向にあるものの、構造上の変化は見られない。

### III. 古墳時代前期

3遺跡14住居が検出されており、うち面積確定住居は10棟。最大住居は「宮沢」SB10の30.3㎡、最小住居は「南貝津」SB20の7.0㎡、平均は16.2㎡。面積の分布は30㎡以下の住居が9棟(90%)を占め、この9棟のうち弥生時代にはみられなかった20㎡以下の住居が6棟検出されている。さらに40㎡以上の住居は検出されておらず、弥生時代の住居と比較して規模が縮小する傾向にあることが理解できる。方位はこの時代も南北軸を西に振る住居が12棟(86%)と大半を占める。しかし主たる方向性は認められず、全般にわたって分布している。あわせて弥生時代後期に豊川右岸で確認された南北軸を東に振る住居がこの時期にも2棟(14%)と少数ながら確認されている。平面形は不整形住居が1棟(「南貝津」SB20)検出されている以外は全て方形住居であり、弥生後期にみられた方形住居への移行が一段と進んでいる事が伺える。柱穴も4 支柱穴が4棟検出されており、この点は弥生時代から変化は見られない。

これに対し、炉跡・カマドと周溝については大きく変化している可能性が考えられる。まず該当14住居のうち周溝が確認されている住居は1棟も存せず、この事は遺構の遺存状況に左右されることではあるが、住居の構造に何らかの変化が起きていると考える事ができる。また炉・カマドについても、焼土面や被熱面が5棟で確認されているが、いずれの報告書もどちらの施設であるかについては論及しておらず、周溝の消滅という構造上の変化と併せて考えると、この段階で炉からカマドへ移行してゆくことも想定しうるのではないであろうか。

### IV. 古墳時代後期

6世紀代 2遺跡7住居が検出されているが面積を確定しうる住居は「見丁塚」SB02(31.9㎡)1棟

である為、面積の比較、分布は不明。方位については南北軸を西へ振る住居は確認されておらず、測定可能な住居の7棟全てが南北軸を東へ振っており、うち5軒(71%)がN-10°~20°-Eに集中している。但し、この7棟の住居はいずれも豊川左岸に位置しており、当該期の豊川右岸の様相は不明である。平面形は面積同様確定資料が方形住居1棟のみで、この時代の傾向を論ずる事はできない。またこの時代になると周溝を伴う住居が5棟検出されており、住居に周溝を伴う構造に変化(復活?)したものと思われる。炉・カマドはカマドに関してはカマドが2棟と少数ではあるが確認されており、カマドの存在に関して不確定要素の強い古墳時代前期から資料を欠く古墳時代中期にかけて、東三河地域に広まっていったことが推定される。柱穴は変化なく4主柱穴の住居が1棟確認されている。

7世紀代 8遺跡18住居を検出、うち面積確定住居は5棟。最大住居は「宮沢」SB13の49.0m<sup>2</sup>、最小住居は「麻生田」SB02の31.4m<sup>2</sup>、平均は37.5m<sup>2</sup>。面積の分布は30~40m<sup>2</sup>の範囲に4棟(80%)が属しており、6世紀代の「見丁塚」SB02も31.9m<sup>2</sup>とこの範囲であることから、平均的住居は弥生時代後期よりも拡大傾向にあると考えられる。この点とあわせて50m<sup>2</sup>以上の大型住居が1棟検出されていることも住居の拡大傾向に沿った動向である。方位は南北軸を西に振る住居が7棟(39%)あり、いずれもN-0°~20°-Wの範囲に含まれている。東へ振る住居は11棟(61%)で分散して構築されているが、6世紀代に最も南北軸方向が集中したN-10°~20°-Eに4棟(36%)の住居が含まれ、この7世紀代の住居も同じ傾向を示している。平面形は円形、長方形住居は検出されておらず、方形住居が5棟とやはりこの時代も方形住居が中心であることが理解できる。その他の施設についても周溝が構築され、カマドを伴い、柱は4主柱穴という住居が一般的と思われる。

以上の様に、古墳時代後期とした6世紀代と7世紀代の住居の各項目を比較した場合、いずれのデータに関しても同一範疇として捉えることができる。面積的には30~40m<sup>2</sup>が平均となり、古墳前期には存在しなかった40m<sup>2</sup>以上の比較的大型の住居が構築される様になり、縮小傾向にあった住居が拡大傾向に転じている。南北軸の方向については豊川右岸の場合はN-10°~20°-W、豊川左岸ではN-10°~20°-Eが主方向となる。この6~7世紀にかけて東三河地域では地磁気がN-10°~20°-W真北とずれており、この点から豊川右岸の住居はほぼ当時の磁北方向に南北軸が設定されていることが分かる。反面豊川右岸は磁北と40°近いずれを生じており、これについてはその理由は定かではない。平面形は方形に統一され、長方形住居が見られなくなる。そして周溝が再びこの時期には見られるようになり、柱穴は4主柱穴が引き続き基本構造とされる。さらに古墳時代前期には不確定要素が多かったカマドについてもこの時代にはほぼ定着すると思われ、7世紀代に入ると住居の一部を突出させカマドとする構造が見られるようになる。

## V. 奈良時代

この時代の対象遺跡は「杉山」「公文」「石堂野」「諏訪」の4遺跡であるが、面積確定住居31棟のうち22棟が「諏訪」であるため、全体のデータが「諏訪」の傾向に大きく影響されることを避けるために、まず「諏訪」以外の3遺跡の分析を行い、その後「諏訪」との比較検討からこの時代の全体傾向を考える事とする。

「諏訪」以外の3遺跡で面積確定された住居は全部で9軒であり、最大住居は「石堂野」のSB36.0m<sup>2</sup>、最小は同じ「石堂野」のSB17.2m<sup>2</sup>、平均値は24.2m<sup>2</sup>である。面積の分布は古墳時代後期にみら

れた30～40㎡の比較的大型の住居が依然3棟（33%）と存続している。これに対して古墳前期にみられた10～20㎡の小型住居も4軒（44%）と再び構築されるようになり、拡大住居の安定と縮小傾向が混在している。方位は南北軸を西へ振る住居が分散傾向にあるものの10棟（91%）と大半を占め、豊川左岸に位置する「公文」の住居1棟が南北軸を東へ振るのみである。平面形は方形以外の住居は確認されておらず引き続き方形住居中心の傾向を示す。但し古墳時代後期より突出部をカマドとして伴う住居が検出されており、この中には突出部を伴った方形住居も含まれる。周溝、柱穴については変化は見られない。

上記の傾向と「諏訪」のデータを比較してみると、まず面積の点では「諏訪」の最大住居42.2㎡、最小住居8.7㎡、平均24.8㎡と最大・最小値に若干の相違が見られるものの、分布が分散的であること、10～20㎡に属する住居が9棟（41%）と最も集中していること。40㎡以上の住居も存在していること等、他の同時期の住居とほぼ同じ傾向を示すといえる。また、10㎡以下の小型住居の出現は奈良時代末から平安時代への移行期に住居の縮小傾向（小型化）が一層進んでいることを表している。次に方位の点についても、全体に分散傾向を示すこと、38棟（93%）の住居が南北軸を西へ振ることから、やはり他の住居と同じ傾向にあるといえる。但し、「諏訪」の3棟の住居が南北軸を東に振っており、今回分析対象としている全時代を通じて豊川右岸で南北軸を東に振る数少ない類例の存在を挙げることができる。その他の比較項目である周溝、カマド、柱穴に関しても同じ形態を有している。

しかし平面形では「諏訪」の面積確定22軒のうち方形住居が16棟（73%）、長方形住居が6棟（27%）検出されており、古墳時代からの方形住居単独から方形・長方形住居混合へと変化している。

以上のことから「諏訪」で検出された住居は一遺跡の状況を表しているのではなく、奈良時代全般の住居のあり方に規定されていると考えることができる。この事は平面形の方形・長方形混合の傾向が、奈良時代末から平安時代初めにかけて豊川流域全体に現れた変化であると断定することができる。

## VI. 平安時代

4遺跡6住居を検出、うち面積確定住居は4棟。最大住居は「森岡」SB01の15.7㎡、最小住居は「西浦」SB01の6.5㎡、平均は12.9㎡である。4棟全てが20㎡以下と小型化しており、奈良時代末に示された住居の小型化傾向が定着している。方位は南北軸を西へ振る住居が2棟、東へ振る住居が4棟である。西へ振る2棟は豊川右岸に位置しN-0°～10°-Wの範囲に含まれ、当時の地磁気は現在の真北と比較した場合N-0°～10°-W程度のズレを生じている事から、これらの住居は古墳時代後期同様ほぼ当時の磁北を向いている事になる。これに対し東へ振る住居はいずれも豊川左岸に立地し、方位の統一性は見られない。平面形に関しては奈良時代同様方形住居3棟（75%）、長方形住居1棟（25%）と方形・長方形混合の傾向が継続していることが理解できる。その他の周溝・カマド・柱穴についての変化は見られない。

## 3. まとめ

豊川流域の弥生中期以降の竪穴住居の変遷について、規模・方位・平面形を中心に分析を試みた結果、以下の様に結論付けることができる。

まず面積については、弥生中・後期が30㎡前後を平均とするのに対し、古墳時代前期には縮小傾向

を示す。これが後期に入ると再び拡大傾向に転じ弥生時代の規模にまで至るようになる。そしてまた奈良時代に入ると縮小し、平安時代には平均値が10㎡程度にまで縮小する。次に南北軸の方位に関しては、豊川を境として右岸は西へ、左岸は東へ振る傾向を読み取ることができる。この面積と方位との間には明確な相関関係<sup>(3)</sup>は認められない。

平面形は弥生中期を除くと方形住居が基本であり、特に古墳時代にこの傾向が強く認められる。長方形住居は奈良時代末から少数であるが再び検出されるようになる。その他の項目については周溝、炉・カマドが古墳時代前期に変化の可能性を示すに止まり、各時代を通じて大きな変化は認められない。

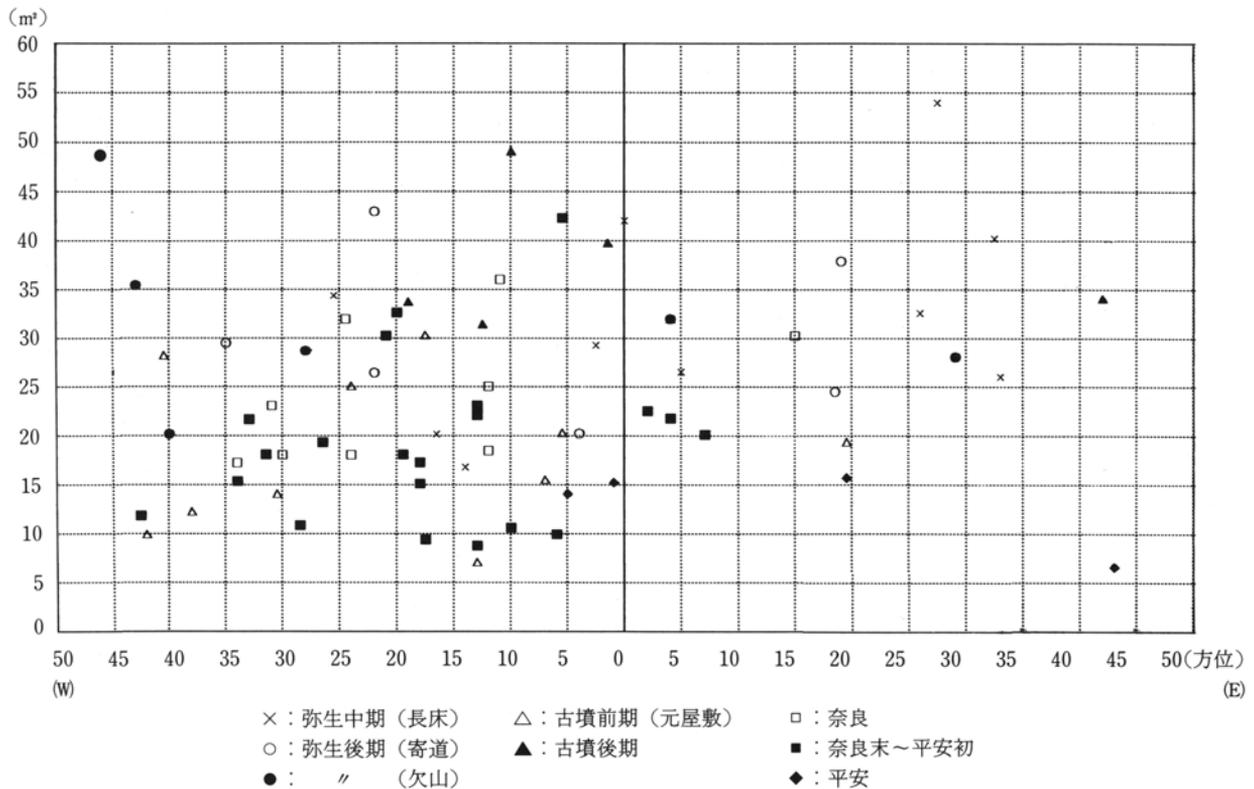
今回の分析対象とした住居の大半が調査区等の制約から一部検出というものであり、比較資料の絶対数が少ないため、必ずしも豊川流域の竪穴住居の各時代における様相を正確に表現しているとは言いがたい側面を有している。今後の資料の蓄積とさらに広範囲に於ける分析検討が要求される。

一註一

(1) この点に関しては調査担当者の判断に左右され、明確な基準の設定は困難な面がある。各報告書に記載されている平面形を(南北辺)÷(東西辺)の比率で比較した場合、方形とされている住居跡の大半のものが比率0.9から1.1の範囲に属していた。この結果に基づき今回は文中の様な分類を試みた。

(2)

(3) 面積及び方位による散布図



—参考文献—

- 『南貝津遺跡発掘調査報告書』新城市教育委員会 1989
- 『杉山遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1988
- 『諏訪遺跡・杉山端城』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1989
- 『宮沢遺跡』一宮町教育委員会 1989
- 『一宮東部地区は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』一宮町教育委員会 1987
- 『麻生田大橋遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1991
- 『郷中・雨谷』豊川市教育委員会 1989
- 『石堂野遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター 1987
- 『石巻神郷地区は場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』豊橋市教育委員会 1986
- 『公文遺跡(II)』豊橋市教育委員会 1989
- 『見丁塚遺跡』豊橋市教育委員会 1990
- 『橋良遺跡現地説明会資料』豊橋市教育委員会 1989
- 『西山 豊橋市南部地区内陸用地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』豊橋市遺跡調査会 1988
- 石野博信『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館 1990
- 宮本長二郎「古墳時代堅穴住居跡論」(『奈良国立文化財研究所学報 研究論集VIII』奈良国立文化財研究所 1989)
- 宮本長二郎「住生活」(『日本考古学を学ぶ(2)』有斐閣選書 1988)
- 宮本長二郎「関東地方の縄文時代堅穴住居の変遷」(『文化財論叢』同朋社)





第13表 豊川流域堅穴住居一覽表

遺跡名	遺構名	時 期	規 模	形 態	掘形比高	方位	床面積	炉・カマド	周 溝	柱 穴
郷中遺跡	郷中SB01	弥生後期(寄道)	不明	不明	15cm	3'	不明	不明	不明	
	郷中SB02	弥生後期(寄道)	2.9(半径)	円形	15cm	不明	(26.14)	不明	南西一部	
	郷中SB03	弥生後期(寄道)	(4.0)×(1.1)	隅丸(長)方形	15cm	40'	不明	不明	不明	
	郷中SB04	弥生後期(寄道)	6.2×(2.2)	隅丸(長)方形	8cm	25'	(13.64)	地床炉(中央)	不明	
	郷中SB05	弥生後期(欠山)	(4.0)×(1.1)	隅丸長方形	12cm	14'	(44.0)	地床炉(中央)	不明	
	郷中SB06	弥生後期(寄道)	(5.4)×(2.4)	隅丸長方形	不明	22'	(12.96)	地床炉(北2ヶ所)	東、南壁下	
	郷中SB07	11C前半	3.9×3.6	方形	7cm	5'	14.04	カマド(北壁中央)	不明	
	郷中SB08	古墳時代(元屋敷)	5.1×(2.6)	隅丸(長)方形	14cm	28'	(13.26)	不明	不明	
	郷中SB09	弥生後期(欠山)	4.0×(2.2)	不整隅丸方形	10cm	0'	(8.8)	不明	不明	
	郷中SB10	弥生後期(寄道)	5.0×(2.9)	隅丸(長)方形	14cm	10'	(14.5)	地床炉(?)	不明	
	郷中SB11	弥生後期(寄道)	不明	隅丸方形	3cm	-70'	不明	地床炉(縁石有り)	不明	
	郷中SB12	弥生後期(寄道)	不明	隅丸(長)方形	6cm	-75'	不明	地床炉(北寄り)	不明	
	郷中SB13	7C前半	不明	隅丸方形	15cm	9'	不明	カマド(北壁突出)	不明	
	郷中SB14	弥生後期(寄道)	不明	隅丸(長)方形	17cm	10'	不明	不明	不明	
	郷中SB15	弥生後期(寄道)	3.6×4.5	隅丸長方形	15cm	-66'	(16.2)	地床炉(中央)	北、南壁下	4本柱
	郷中SB16	7C代	3.7×(1.1)	隅丸方形	10cm	11'	(4.07)	不明	不明	4本柱
	郷中SB17	弥生中期(長床)	3.0×4.1	隅丸(長)方形	8cm	0'	(12.3)	地床炉(2ヶ所)	北壁下	
	郷中SB18	弥生中期(長床)	(1.3)×4.2	隅丸(長)方形	5cm	25'	(5.46)	不明	不明	
国分寺遺跡	国分寺1号住居	弥生時代	5.4×(3.4)	隅丸方形	30cm	8.5'	(18.36)	地床炉(中央)	一部確認	
	国分寺2号住居	弥生時代	4.1×(2.1)	隅丸(長)方形	不明	8'	(17.22)	不明	検出面全部	
	国分寺3号住居	弥生時代	4.8×(2.1)	隅丸(長)方形	25cm	6.5'	(10.08)	不明	検出面全部	
	国分寺SH101	弥生後期	不明	隅丸(長)方形	7cm	-10'	不明	不明	南壁から東壁	
南貝津遺跡	南貝津SB01	不明	4.7×(1.4)	隅丸方形(?)	30-40cm	-54.5'	(6.58)	不明	不明	
	南貝津SB02	不明	5.5×5.5	隅丸方形状	28-35cm	54'	30.25	南壁付近に焼土	不明	
	南貝津SB03	弥生後期(寄道)	4.3×4.7	隅丸方形状	13-29cm	4'	(20.21)	中央に焼土	不明	
	南貝津SB04	弥生後期(欠山)	(4.0)×5.3	隅丸方形	16-43cm	6.5'	(21.2)	北東部に焼土	不明	東壁際
	南貝津SB05	不明	不明	隅丸方形状	46cm	-21'	不明	不明	不明	
	南貝津SB06	弥生後期(欠山)	5.6×3.6	隅丸長方形	10-16cm	40'	(20.16)	焼土塊あり	不明	
	南貝津SB07	不明	4.5×(1.3)	隅丸方形状	16cm	34.5'	(5.85)	不明	不明	
	南貝津SB08	古墳時代(元屋敷)	3.3×3.0	隅丸方形	14-19cm	42'	9.9	不明	不明	
	南貝津SB09	弥生後期(欠山)	5.0×5.6	隅丸長方形	11-16cm	-29'	28	不明	不明	
	南貝津SB10	弥生後期(寄道)	4.7×5.2	隅丸長方形	11-44cm	-18.5'	24.44	北壁際焼土	不明	
	南貝津SB11	弥生後期(欠山)	2.8×3.0	不整円形	10-20cm	不明	24.6-28	北西に焼土	不明	4柱穴
	南貝津SB12	弥生後期寄道・欠山	6.0×6.3	隅丸方形	14cm	-19'	37.8	北壁にカマド	不明	
	南貝津SB13	弥生後期欠山元屋敷	5.7×5.6	隅丸方形	9-31cm	-4'	31.92	焼土有り	不明	4柱穴
	南貝津SB14	不明	(4.5)×3.5	不整隅丸長方形	10-30cm	-13'	(15.75)	不明	不明	
	南貝津SB15	古墳時代(元屋敷)	3.7×4.2	隅丸方形	21-49cm	7'	15.52	北東に焼土	不明	
	南貝津SB16	不明	4.3×4.7	隅丸方形	22-59cm	-24'	20.21	西壁際に焼土	不明	4柱穴
	南貝津SB17	不明	(0.5)×3.7	隅丸(長)方形	37cm	-25.5'	(1.85)	不明	不明	
	南貝津SB18	古墳時代(元屋敷)	(3.7)×(3.7)	隅丸方形状	24-37cm	-5'	(13.69)	不明	不明	
	南貝津SB19	弥生後期(寄道)	(2.5)×(4.5)	(楕円)長方形	34-49cm	74'	(11.25)	不明	不明	
	南貝津SB20	古墳時代(元屋敷)	2.6×2.7	不整隅丸方形	28-32cm	13'	7.02	中央に焼土	不明	
宮沢遺跡	宮沢SB3	古墳時代(元屋敷)	4.4×4.4	隅丸方形	10-20cm	-19.5'	19.36	不明	不明	4柱穴
	宮沢SB4	古墳時代(元屋敷)	3.5×3.5	隅丸方形	25cm	38'	12.25	不明	不明	
	宮沢SB5	古墳時代(元屋敷)	3.5×4.0	隅丸長方形	17cm	30.5'	14	不明	不明	
	宮沢SB6	古墳時代(元屋敷)	4.5×4.5	隅丸方形	35-50cm	5.5'	20.25	不明	不明	
	宮沢SB7	古墳時代(元屋敷)	5.0×5.0	隅丸方形	15cm	24'	25	南西隅に被熱粘土	不明	4柱穴
	宮沢SB8	古墳時代(元屋敷)	5.3×5.3	隅丸方形	11-15cm	40.5'	28.09	西壁付近に焼土面	不明	4柱穴
	宮沢SB9	古墳時代(元屋敷)	(4.5)×4.5	隅丸方形	16cm	27.5'	(20.25)	不明	不明	
	宮沢SB10	古墳時代(元屋敷)	5.5×5.5	隅丸方形	35cm	17.5'	30.25	北東隅に被熱粘土	不明	4柱穴
	宮沢SB13	7C前半	7.0×7.0	隅丸方形	10-17cm	10'	49	北壁にカマド	不明	4柱穴
	宮沢SB14	古墳時代(元屋敷)	(-)×4.9	不整形	27cm	15.5'	不明	不明	不明	
多り畑遺跡	多り畑SB1	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
	多り畑SB2	7C前半	5.0×(3.8)	隅丸方形(カ)	10cm程度	-30.5'	(19.0)	不明	四周に巡る	
青木遺跡	青木ISB1	7C代	7.6×7.0	不明	15cm程度	-22'	(53.2)	不明	四周に巡る	4柱穴
	青木ISB2	7C代	(1.5)×6.8	隅丸(長)方形	不明	-8.5'	(10.2)	北壁中央に焼土	不明	
西屋敷I遺跡	西屋敷ISB1	6C後半-7C前半	(6.3)×7.0	隅丸(長)方形	15cm程度	-26.5'	(44.1)	北壁中央に焼土	不明	
	西屋敷ISB2	6C後半-7C前半	(2.1)×(4.9)	隅丸(長)方形	25cm程度	-12'	(10.29)	北壁中央に焼土	不明	

遺跡名	遺構名	時期	規模	形態	掘形比高	方位	床面積	炉・カマド	周溝	柱穴
諏訪遺跡	諏訪S B012	弥生後期(欠山)	5.9×(-)	不明	25cm程度	不明	不明	不明	有り	5柱穴
	諏訪S B014	弥生後期(欠山)	(2.4)×(2.4)	隅丸(長)方形	25cm程度	22°	(5.76)	不明	四周	
	諏訪S B101	弥生後期(寄道)	5.8×7.4	隅丸方形	不明	22°	42.92	不明	四周	
	諏訪S B102	弥生後期(寄道)	4.8×5.5	隅丸長方形	25cm	22°	26.4	不明	四周	
	諏訪S B106	弥生時代	4.3×5.4	隅丸長方形	10cm	32°	23.22	不明	四周	
	諏訪S B110	弥生後期(欠山)	5.3×5.4	隅丸方形	60cm	28°	28.62	不明	東壁以外	
	諏訪S B111	弥生後期(欠山)	5.7×6.2	隅丸長方形	不明	43°	35.34	不明	四周	
	諏訪S B114	弥生後期(寄道)	4.9×6.0	隅丸長方形	30cm	35°	(29.40)	不明	四周(カ)	
	諏訪S B124	弥生後期(寄道)	(2.0)×(2.0)	隅丸(長)方形	30cm	24°	(4.0)	不明	一部確認	
	諏訪S B141	弥生後期(欠山?)	3.8×(2.2)	不明	不明	18°	(12.76)	不明	一部確認	
	諏訪S B001	8C後半-9C前半	6.6×6.4	隅丸方形	8-26cm	5.5°	42.24	北壁中央にカマド	不明	
	諏訪S B002	8C後半-9C前半	4.8×4.6	隅丸方形	12cm程度	13°	22.08	北壁中央に焼土	不明	
	諏訪S B003	8C後半-9C前半	(2.2)×(3.4)	隅丸方形(カ)	20cm程度	18°	(7.48)	不明	不明	
	諏訪S B004	8C後半-9C前半	4.5×(4.3)	隅丸方形	20cm程度	30°	(19.35)	不明	不明	
	諏訪S B005	8C後半-9C前半	3.0×3.1	方形	25cm程度	17.5°	9.3	北壁突出部に焼土	四周	
	諏訪S B006	8C後半-9C前半	4.3×3.5	長方形	10cm程度	18°	15.05	東北部に焼土	不明	
	諏訪S B007	8C後半-9C前半	4.4×4.1	方形	45cm程度	19.5°	18.04	北壁付近に焼土	不明	
	諏訪S B008	8C後半-9C前半	不明	不明	20cm程度	7.5°	不明	不明	不明	
	諏訪S B009	8C後半-9C前半	(3.2)×4.3	隅丸(長)方形	4cm	20°	(13.76)	不明	ほぼ四周	
	諏訪S B010	8C後半-9C前半	3.3×(2.4)	隅丸(長)方形	5cm	27°	(7.92)	不明	不明	
	諏訪S B011	8C後半-9C前半	5.8×5.6	不整形	23cm	20°	32.48	北壁中央に焼土	不明	
	諏訪S B013	8C後半-9C前半	4.7×4.9	方形	10cm程度	13°	23.03	北壁中央にカマド	カマド部以外	
	諏訪S B015	8C後半-9C前半	4.1×4.2	方形	不明	18°	17.22	東壁突出部に焼土	不明	
	諏訪S B016	8C後半-9C前半	3.3×3.2	不整形	不明	10°	10.56	北壁付近に焼土	不明	
	諏訪S B017	8C後半-9C前半	不明	不明	15cm程度	14°	不明	不明	不明	
	諏訪S B018	8C後半-9C前半	不明	不明	30cm程度	26°	不明	不明	不明	
	諏訪S B020	8C後半-9C前半	不明	不明	20cm程度	32°	不明	北壁突出部に焼土	不明	
	諏訪S B021	8C後半-9C前半	4.2×4.3	方形	30cm程度	31.5°	18.06	東壁突出部に焼土	不明	
	諏訪S B026	8C後半-9C前半	4.1×5.3	長方形	6cm程度	-4°	21.73	北壁中央に焼土	不明	
	諏訪S B104	8C後半-9C前半	不明	不明	30cm	1°	不明	不明	不明	
	諏訪S B105	8C後半-9C前半	5.2×5.8	長方形	5-21cm	21°	30.16	不明	不明	
	諏訪S B108	8C後半-9C前半	(2.8)×4.5	隅丸(長)方形	30cm	24°	(12.60)	不明	不明	
	諏訪S B109	8C後半-9C前半	4.1×4.9	長方形	5-11cm	-7°	20.09	北壁中央に焼土	不明	
	諏訪S B112	8C後半-9C前半	4.5×3.4	長方形	不明	34°	15.3	不明	不明	
	諏訪S B115	8C後半-9C前半	4.8×4.5	方形	13cm程度	33°	21.6	北壁付近に焼土	不明	
	諏訪S B116	8C後半-9C前半	3.1×3.8	不整形	8cm程度	42.5°	(11.78)	不明	不明	
	諏訪S B117	8C後半-9C前半	3.0×3.6	長方形	6cm程度	28.5°	10.8	不明	不明	
	諏訪S B118	8C後半-9C前半	5.8×6.8	長方形	7cm程度	39°	39.44	不明	不明	
	諏訪S B119	8C後半-9C前半	4.1×4.7	長方形	7cm程度	26.5°	19.27	不明	不明	
	諏訪S B120	8C後半-9C前半	(5.3)×4.5	長方形	20cm	29°	(23.85)	不明	不明	
	諏訪S B121	8C後半-9C前半	3.0×(4.4)	不整形	25cm	22.5°	(13.5)	不明	不明	
	諏訪S B133	8C後半-9C前半	3.1×2.8	不整形	不明	13°	8.68	不明	不明	
	諏訪S B135	8C後半-9C前半	(2.8)×(2.8)	隅丸(長)方形	30cm	20°	(11.20)	北壁中央に焼土	不明	
諏訪S B136	8C後半-9C前半	3.0×3.3	不整形	5cm程度	6°	9.9	不明	西壁以外		
諏訪S B139	8C後半-9C前半	(3.2)×(3.0)	隅丸(長)方形	不明	31°	(9.60)	不明	検出部全部		
諏訪S B201	8C後半-9C前半	5.0×4.5	長方形	13-20cm	-2°	22.5	不明	不明		
諏訪S B202	8C後半-9C前半	(-)×3.6	不明	80cm程度	1°	不明	不明	不明		
諏訪S B203	8C後半-9C前半	(1.4)×(1.4)	不明	60cm程度	1°	(2.24)	不明	不明		
諏訪S B301	9C後半-10C	3.3×4.6	長方形	25cm程度	1°	15.18	不明	不明		
諏訪S B302	8C後半-9C前半	3.6×(3.5)	隅丸(長)方形	15cm程度	32°	(12.60)	不明	不明		
諏訪S B303	8C後半-9C前半	(2.4)×(2.2)	長方形	10cm	23.5°	(5.28)	北壁突出部に焼土	不明		
諏訪S B304	8C後半-9C前半	2.4×(-)	不明	20cm程度	30°	不明	北壁突出部に焼土	不明		
杉山遺跡	杉山S B01	8C代(奈良時代)	5.0×5.0	方形	8cm	12°	25	不明	不明	4柱穴
石堂野遺跡	石堂野S B02	弥生後期欠山元屋敷	7.0×(6.9)	方形	2-15cm	46°	(48.3)	不明	検出部全部	
	石堂野S B18	弥生後期欠山元屋敷	5.3×(2.5)	不明	2-10cm	21°	(13.25)	不明	不明	
	石堂野S B01	8C中葉-8C後葉	4.9×4.7	不定方形	1-4cm	31°	23.03	不明	不明	
	石堂野S B05	8C中葉-8C後葉	(3.8)×(4.2)	方形	3-8cm	46°	(15.96)	不明	東壁一部検出	
	石堂野S B03	8C中葉-8C後葉	4.3×4.3	突出部ある方形	5-10cm	12°	18.49	不明	不明	
	石堂野S B06	8C中葉-8C後葉	(2.4)×4.0	方形	4-10cm	9.5°	(9.60)	東壁にカマド	不明	

遺跡名	遺構名	時期	規模	形態	掘形比高	方位	床面積	炉・カマド	周溝	柱穴	
石堂野遺跡	石堂野S B07	8 C中葉-8 C後葉	4.1×4.4	隅丸方形	3-8cm	30°	18.04	不明	不明		
	石堂野S B09	8 C中葉-8 C後葉	4.2×4.1	方形	1-5cm	34°	17.22	不明	不明		
	石堂野S B10	8 C中葉-8 C後葉	5.7×5.6	方形	5-10cm	24.5°	31.92	不明	不明		
	石堂野S B14	7 C中葉-7 C後葉	5.8×(5.0)	方形(カ)	10-35cm	12.5°	(29.00)	北壁突出部にカマド	検出部全部		
	石堂野S B15	8 C中葉-8 C後葉	4.3×4.2	方形	10-25cm	24°	18.06	不明	北・西壁		
	石堂野S B16	8 C中葉-8 C後葉	6.2×5.8	不整形	3-35cm	11°	35.96	不明	北・南壁一部		
	石堂野S B21	不明	6.4×(2.5)	方形(カ)	10-15cm	46.5°	(16.0)	不明	不明		
見丁塚遺跡	見丁塚1号	古墳時代後期項	4.5×(3.0)	隅丸(長)方形	不明	-29.5°	(13.50)	北壁にカマド	四周に巡るか		
	見丁塚2号	古墳時代後期項	(4.0)×(5.1)	隅丸(長)方形	不明	-27°	(24.99)	不明	四周に巡るか		
	見丁塚3号	古墳時代後期項	6.7×(4.2)	隅丸(長)方形	不明	-9°	(28.14)	北壁にカマド	四周に巡るか		
	見丁塚4号	古墳時代後期項	(2.6)×2.5	隅丸長方形	不明	-19.5°	(6.50)	東壁にカマド	不明		
	見丁塚S B1	7 C後葉	(5.1)×3.2	隅丸脚張長方形	7cm	-10.5°	(16.32)	不明	四周に巡るか		
	見丁塚S B2	6 C中葉	5.6×5.7	隅丸正方形	14cm	-4°	31.92	南西隅にカマド	四周に巡るか	4柱穴	
	見丁塚S B3	7 C前葉	(5.3)×(6.3)	隅丸長方形	不明	-14°	33.39	不明	四周に巡るか	4柱穴	
	見丁塚S B4	6 C中葉-7 C前葉	(1.7)×(5.0)	不明	不明	-14°	(8.50)	不明	検出部全部		
	見丁塚S B5	6 C中葉	(4.8)×(4.3)	不明	不明	-11°	(20.64)	不明	西壁検出		
	見丁塚S B6	6 C前葉-6 C中葉	(1.0)×3.8	隅丸長方形	13cm程度	-19°	(3.8)	不明	検出部全部		
	見丁塚S B7	7 C項	(4.5)×(3.1)	隅丸(長)方形	12cm程度	-8°	(13.95)	不明	検出部全部		
	見丁塚S B8	6 C末葉-7 C前葉	(2.5)×(4.2)	隅丸(長)方形	16cm程度	-17°	(10.50)	不明	検出部全部		
	橋良遺跡	橋良1号住居	弥生中期(長床)	5.5×7.3	隅丸長方形	不明	-32.5°	40.15	西壁付近に炉跡	一部あり	
		橋良2号住居	弥生中期(長床)	(7.0)×(6.0)	隅丸長方形	不明	0°	(42.0)	不明	あり	
橋良3号住居		弥生中期(長床)	4.5×(6.5)	(隅丸)長方形	不明	2.5°	(29.25)	不明	あり		
橋良4号住居		弥生中期(長床)	6.5×(4.0)	隅丸長方形	不明	-33°	(26.0)	不明	あり	4柱穴	
橋良5号住居		弥生中期(長床)	不明	不明	不明	-6°	不明	不明	あり		
橋良6号住居		弥生中期(長床)	5.3×(5.0)	隅丸方形	不明	-5°	26.5	不明	あり	4柱穴	
橋良7号住居		弥生中期(長床)	5.5×(5.0)	隅丸(長)方形	不明	10°	(27.5)	不明	あり		
橋良8号住居		弥生中期(長床)	3.8×5.3	隅丸長方形	不明	16.5°	(20.14)	東壁際に炉跡	あり		
橋良9号住居		弥生中期(長床)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	あり		
橋良10号住居		弥生中期(長床)	3.5×4.8	隅丸長方形	不明	14°	16.8	東壁際に炉跡	一部あり		
橋良11号住居		弥生中期(長床)	5.5×7.3	隅丸長方形	不明	-32.5°	40.15	西壁際に炉跡	一部あり	4柱穴	
橋良12号住居		弥生中期(長床)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明		
橋良13号住居		弥生中期(長床)	6.0×9.0	隅丸長方形	不明	-27.5°	54	西壁際に炉跡	あり	4柱穴	
柱良14号住居		弥生中期(長床)	(5.0)×(6.5)	隅丸長方形	不明	-26°	(32.5)	不明	一部あり	4柱穴	
森岡遺跡	森岡S B01	11C(平安時代)	4.3×4.1	方形	1-7cm	-19.5°	15.7	北壁中央にカマド	一部あり	4柱穴	
	森岡S B02	7 C後半	3.3×(4.4)	(長)方形	6-10cm	-9.5°	(11.4)	北壁付近にカマド	東壁のみ		
	森岡S B03	7 C後半	4.9×(2.8)	方形	1-11cm	-19.5°	(13.4)	不明	不明		
	森岡S B04	11C(平安時代)	3.5×(3.4)	方形	5-9cm	-18°	(10.8)	不明	不明		
	森岡S B05	7 C後半	不明	不明	4cm程度	-19.2°	不明	不明	不明		
	森岡S B06	7 C後半	4.5×(2.9)	方形	5-9cm	-31.5°	(11.7)	不明	不明		
	森岡S B07	7 C後半	5.9×5.7	方形	1-11cm	-42°	34	北壁中央にカマド	不明		
	森岡S B08	弥生後期(山中)	不明	隅丸(長)方形	5-9cm	不明	不明	中央部に炉跡	南壁のみ		
	森岡S B09	弥生中期(高蔵)	(5.2)×6.6	方形	3-10cm	25.5°	(34.3)	中央部に炉跡	北壁のみ		
	森岡S B10	弥生後期(山中)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明		
西浦遺跡	西浦S B1	11C(平安時代)	2.3×2.5	隅丸方形	25cm	-43°	6.53	東にカマド	不明		
	西浦S B2	11C(平安時代)	(1.7)×2.5	隅丸方形	12-20cm	-33°	(6.46)	東にカマド	不明		
公文遺跡	公文S B1	奈良時代	5.8×5.2	長方形	記載なし	-15°	30.2	不明	北壁以外		
	公文S B2	奈良時代(?)	3.1×2.9	長方形	約40cm	-9°	9.0	北壁にカマド	不明		
麻生田大橋遺跡	麻生田S B01	古墳時代後期	5.8×5.8	方形	4cm	19°	33.64	北にカマド	北壁以外		
	麻生田S B02	古墳時代後期	5.5×5.7	不整形	不明	12.5°	31.35	不明	不明		
	麻生田S B03	古墳時代後期	6.2×6.4	方形	不明	1°	39.68	北にカマド	不明		

※注(1)方位の項目のマイナスの数字は、南北軸を東へ振っていることを示している。

(2)分析項目で、規模の単位はm、床面積はm<sup>2</sup>、柱穴の4柱穴は支柱穴が4本であることを表示している。

(3)方位はいずれも真北で表示してある。

(4)規模の計測不能のものは(一)で表示。